

大都市並みに 地方らしく

25 参院選
ふくしま
有権者の
思い



自分らしい生き方や不透明な将来への不安と希望。若者も世の中や地域に関心を寄せ、参院選の行方を追う。

東京都など都市部への若者流出が課題となっている。本県、能勢さんはその理由について「地方にやりたい分野の仕事がなかったり、給与や私生活の豊かさ、ひかれたりするところ」と話す。

今年に入り、新たな事業を本格的に始めた。技術者と企業とのマッチングで、AIが技術者のスキルなどを評価し、就職支援につなげる取り組みだ。具体例としては、膨大な資料を基にした評価が必要だった「AI（エド）」の役員設計や人感（AI）の技術力などをAIが数値化するという。「スキルを生かせる場所をつくり、地方と東京の差をなくす」。

住み心地がいい一方、給食や部活動の地域移行など首都圏と地方で差が生まれる教育環境の差を危惧する。「税収によって給食が変わってしまうのは不安。所得の少ない世帯の子どもが部活動に参加できなくなってしまうのは本末転倒だ。近い将来ではなく、子どもたちのために効果的な支援策の実現を訴える」。

「スタートアップが増えれば地元定着にもつながるはず」と話す能勢さん。

スキル生かす職場を 教育首都圏のように

▲ 7月9日 福島民友新聞掲載

能勢さんはどのような思いや目標をもって事業を進めていますか。

湯浅さんはどのような考えから本宮にリターンしましたか。

皆さんは「大都市並みに地方らしく」とはどういうことだと考えますか。